

「2025年度東アジアジュニアワークショップ参加報告書」

京都大学大学院公共政策教育部公共政策専攻 修士1回 山下凌平

この夏休みに、私は東アジアジュニアワークショップに参加しました。くじ引き選抜制度や機会の不平等という私が関心を持ってきた領域をまとめ、発表し、国際的な文脈で捉え直したこと、さらに東アジアの同世代の学生・研究者と交流したことは、知見を広げる上で非常に貴重な機会となったように思います。本稿では、ワークショップでの学習成果、渡航先での経験、プログラム内容、そして本ワークショップが自身の進路に与えた影響について報告します。

私はくじ引き入学制度に関する批判的考察について発表しました。本ワークショップを通じて、研究をより多角的な視点から捉え直すことが可能になったと考えています。自分と「構造的不平等」のセッションを同じくしたSNUのチェ・ムンソンさんは韓国と日本の若者のイデオロギーの分断について研究しており、両国の若者のイデオロギーにおける世代内での分断を指摘していました。私自身は教育格差に特に関心を持ち研究の題材と据えていますが、彼の研究からは、単なる教育の差異だけでなく価値観や思想のようなより深いレベルでの若者世代の社会に対する認識の分断が示唆されており、新たな視点を与えていただいたように思料します。また、フィールドトリップでは台北市内を巡りました。例えば国立台湾博物館や、二・二八和平紀念公園、立法院を訪問しました。

今回のワークショップは、私にとって自分と自分を取り巻く社会を理解する新たな切り口をいただく貴重な機会となりました。特に、フィールドトリップや時間外での参加者との交流からは感じること、学ぶことが多々あったように思います。また、3大学の学生や教授陣との交流からは、研究発表での前提知識の伝え方や課題感の共有の方法など、国際交流ならではの学びを多々いただけたように思います。

この経験は、私の進路に対しても影響を与えたように思います。私はこれまで国内の社会課題解決に特に関心を抱いてきましたが、ワークショップを通じて東アジアという共通の文脈で課題を捉える視座を得ました。私に内定をくださった企業のどれを選択するにせよ、国家・言語・文化を越えた活動が必要になると考えています。仕事を通じて、少しでもEAJWで感じた学び・違和感を成果に結実させられるよう、今後とも邁進していきたく考えております。第17回東アジアジュニアワークショップを通じ、たくさんの学びがあったように思います。京大の皆様、SNUの皆様、歓迎してくださったNTUの皆様に心より感謝を申し上げたいと思います。